

氏名	那 須 欽 爾
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 894 号
学位授与の日付	昭和 52 年 9 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	薬物による網膜変性の研究 第 1 報 実験的クロロキン網膜症の初期変化について 第 2 報 実験的クロロキン網膜症の網膜内層の変化について 第 3 報 クロロキン網膜症患者の長期観察について
論文審査委員	教授 小川勝士      教授 佐伯清美      教授 妹尾左知丸

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

著者は、クロロキン網膜症の成因と病態を解明することを目的として、クロロキン投与有色家兎の網膜を光顕及び、電顕により観察し、一方、クロロキン網膜症患者 7 名につき、最高 9 年 8 カ月の経過観察を行った。

クロロキンを経口投与した家兎網膜では、投与 5 カ月後、網膜色素上皮内に、層状構造物、油滴状顆粒、幼若メラノゾームの出現、リボゾームの増加を認めた。7 カ月後、視細胞内節、外節の変性を、又、内層では、8 カ月後、視細胞 synapse の変化を認めた。

又、クロロキンの紫外線吸収スペクトルを諸種条件下で測定し、クロロキンが、生体内の SH-酵素群と結合する可能性を示した。酵素活性の盛んな網膜外層に於て、SH-酵素群を不活性化し、ひいては、変性に至らしめると考える。

クロロキン網膜症患者の視機能は、特に軽症では、内服中止後 1～3 年以後は、ほとんど変化しないとされていたが、長期観察の結果、6～8 年後、急激な、高度の低下を認めた。本症は尚、進行性であると考ええる。

#### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はクロロキン投与有色家兎の網膜病変を光顕的並びに電顕的に追究すると共に、クロロキン網膜症患者の長期観察を行ったものであるが、網膜色素上皮と視細胞に及ぼす本剤の経時的障害作用を明白にし、且、それが人の網膜に於て長期にわたり進行性であることを警告した点価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。